北町中学校だより
誠・力・光
11月
令和8年度　11月号

見方・考え方をプラスに変えて





校長　岩本　眞由美

10 月 24 日は学習発表会が開催され、多くの保護者の皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。午前の部での合唱コンクールでは、1 年生は元気よく、明るい歌声で歌い上げ、2 年生は響きが重厚になり、男子と女子のハーモニーが複雑になった曲を歌い上げました。3 年生では、男子、女子ともに変声が進み、一層深みのある声で表現力高く歌い上げました。最初の挨拶で、「絵を平面の芸術、彫刻を立体の芸術とすれば、音楽は時間の芸術と言えるのではないでしょうか。過ぎ去った時間は戻れません。録音・録画として聴くことはできますが、その時、その場で聴く生の演奏・発表は、他に代えることができない貴重なものです。本日の発表をかけがえのないものとして楽しみ、思い出としてください。」という内容をお話いたしました。音楽は聴覚に訴える芸術ですが、音符や休符には長さが必ず示されているように、時間が深く関係する芸術です。

時間についていろいろと考えてみると不思議な特性があります。時間を計る単位は、1 日 24 時間、1 時間 60 分、1 分 60 秒というのは、皆同じです。1 日の長さは誰にでも平等に与えられているもので、人によって物理的な長さが違うことはありません。しかし感覚的な時間の長さは人や状況によって大きく異なります。子供の頃は 1 日、1 年がとても長く感じていたのに、大人になればなるほど感じる時間が早まります。「もう 11 月なのか、今年もあっという間ですね。」なんて会話は、歳をとればとるほどよく聞かれるものです。あるテレビ番組で子供と大人の時間の経過の感覚の違いはどうして生まれるのかについて解説をしていました。それによると子供時代は経験することが何もかも初めてで、様々な感動やときめきがあることで、時間を長く感じているとのことでした。逆に大人は様々な経験をしてきたことで、感動やときめきを失ってしまって、時間が早く過ぎ去ってしまうように感じてしまうと説明されていました。初めての場所に行くときに、到着まで長く感じるのに、帰路は短く感じるのもこの理由のように感じます。それとは逆に、自分の中で興味があり、面白い授業、楽しい授業も 1 時間はあっという間に過ぎるのに、興味がなくつまらない授業は 1 時間がとても長く感じることは、誰もが経験していることではないでしょうか。

3 年生は、これから進路決定に向けて、受験という大きな人生の選択のタイミングがやってきます。これからは、進路決定に向けた学習の最後の仕上げの段階に近づいていきます。「受験勉強しんどい」「早く終わりたい」等の声を聞くことがあります。こういう時の時間は長く感じるので、なかなか大変です。「受験勉強で新しい発見があった」等の思いになっている時はあっという間に時間が過ぎます。

感動やときめきのようなプラスの感情をもつことが、充実した時間を過ごすために必要だとすると、必然的に机に向かう時間が長くならなければならないこの時期に充実した時間を過ごすためには、見方・考え方をプラスに変えて、楽しんで学習することが大切なのだろうと考えます。3 年生にとっては、なかなか考え方をプラスに変えていくことは難しいかもしれませんが、これからの人生の中でつらい時期、苦しい時期をいろいろと過ごすことは間違いないでしょう。ここで、自分の心のもちようを変える力つけることができれば、この先、必ず役立つことは間違いありません。時間は決して戻せません。だからこそ、今この時間をどう過ごしていきたいかのかを大切にして 1 日 1 日を過ごしてほしいと思います。